



お江戸舟遊び瓦版 1055号

水彩都市江東 ころも美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

第12回首都防災ウィーク防災フォーラム

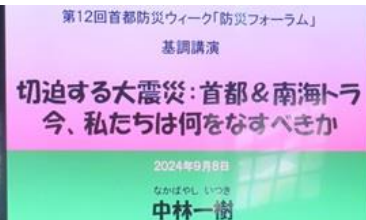
日時：2024.9.8 13時～17時半 東京都慰霊堂

(35) 240908「みらくるTV」基調講演・フォーラム

基調講演：中林一樹（東京都立大学名誉教授）

1. 切迫する大震災：阪神淡路大震災、東日本大震災、南海トラフ地震と巨大地震が切迫している
2. 高齢社会の100年やるべきこと！

- ① 被害を軽減する「事前防災」としての耐震補強
- ② 高齢社会の「災害対応」である「コミュニティ防災」立体的な街である“マンション”の互近助防災の推進
高齢社会の誰一人取り残さない互近助防災の推進
在宅避難者を守る“避難生活者地域運営マニュアル”
- ③ 「事前復興」としてやっておくべき自助・共助・公助
- ④ マンション防災強化：上ほど揺れるが、水害は下から
- ⑤ 国難級巨大地震に備える事前復興：国と大都市圏自治体連合による事前復興計画づくりが急務



フォーラム第一部「誰も取り残さない防災～障がいや年齢を超えて」

コーディネーター：浅野史郎（元宮城県知事）、パネリスト：古本聡（(株)土屋最高文化責任者、脳性麻痺）、

佐木理人（毎日新聞論説委員、点字毎日記者、全盲）、竹DS（創作ソロ手話唄、聴覚障がい）、

- ・ 高齢者の買い物困難、空き室利用推進、災害時の情報と移動の困難、食事とトイレの困難など。
- ・ それぞれが障害を持っているからこそ人間は深くなると思う。障害のある方、ない方がお互いに理解し合い、人と人とのつながりが一番大切で、災害・防災時に助け合いたい。

フォーラム第二部「シティコン海底山脈」

趣旨説明：1年の取り組みから、次の課題へ：鍵屋一（跡見学園女子大教授）

首都直下大震災ではビル倒壊などの大量の瓦礫が東日本大震災の約7倍で、その活用は素晴らしい。事前復興として期待したい。

基調講演：鈴木達雄（人工海底山脈開発者、シティコン海底山脈研究会代表）

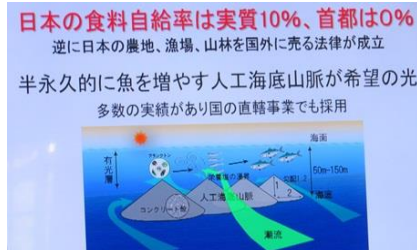
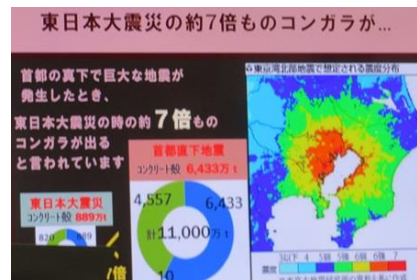
日本の食糧自給率は実質10%、首都は0%。日本の農地、漁場、山林を国外に売る法律が成立してもいる。半永久的に魚を増やす人工海底山脈は希望の光だ。シティコンを利用した人工海底山脈を作り、底層の栄養豊富な海水を浮上させ、プランクトンを増やし、漁獲量拡大に貢献でき、震災復興に大変有効となる。

国政からの発言：コーディネーター：鍵屋一（跡見学園女子大教授）

川田龍平（立民）、小野泰輔（維新）、川合孝典（国民民主）

人工海底山脈は長崎沖の海底で有効性が実証されている等その重要性は確かと思われる。震災復興を速やかにするなど有効性は高い。多くの人の理解を得るべく、政府・大都市圏防災の復興方針策定に向けて、政府を動かすように取り組んでいく。

所感：他国の資源に依存した工業優先から、自国の農林水産業・製造業・地元の土産業をベースとした食糧自給率100%を重視した安心安全な循環型・生物多様性立国への転換が望まれる。巨大地震の事前復興の備えが必要。（文責 中瀬）



日時： 8月24日 19:30~21:00 みらくるTV
参加： 中林一樹（都立大学名誉教授、首都防災ウィーク代表）

北砂アカデミア防災塾（中瀬、伴、森崎）

有川太郎（中央大学海岸・港湾研究室教授、(国) 港湾空港技術研究所客員研究員）

240824「みらくるTV」超巨大台風と荒川氾濫～どれだけ事前避難ができるか (youtube.com)

超巨大台風と荒川氾濫

～どれだけ事前避難ができるか～

首都を襲う巨大水害～江東区における災害意識と防災訓練

北砂アカデミア防災塾

- 10年前の都土木技師土屋信行『首都水没』によると、東京は世界一危ない都市で、100年前の関東大震災で10万人が火災と家屋倒壊で死亡した。その後工業が発展し、工業用水に地下水を揚水し、地盤が沈下、最大海面下3~5mのマイナス地域が生まれた。そこに250万人が住み、スーパーとコンビニに依存した食生活の崩壊が浸水で予想される。地下鉄も危険だ。
- 区議会では、マイナス地域の認識が薄く、議論されていない。防災訓練は耐震と耐火でマイナス地域防災にはなっていない。
- 区政調査によると、震災時の不安は浸水・津波、停電・断水・電話不通、避難場所の安全など。区に望むことは、食糧・水などの応急物資、豊洲は特にトイレと液状化対策である。大規模水害には、排水、堤防強化、安心安全な避難所環境整備が求められている。
- 地元住民の声は、天気と交通機関情報入手、安易な広域避難や垂直避難の難しさとともに、タワーマンションのトイレや移動問題、住民間の交流・共助の少なさ、液状化問題等が挙げられた。



高潮避難のあり方を考える 砂町地区を対象として 有川太郎

今回の台風10号の襲来を目前に、台風予告の難しさを解説された。

- 台風の進路予想の精度が上がり、高潮・浸水予測も進んできたので、砂町地区水害避難支援システム研究も進歩していきたい。
- 今後は、砂町地区住民の協力を得てスマホで見える水害避難システムづくりを進め、安全安心なまちづくりに寄与したい。



スマホ画面で見える避難支援システム

首都を襲う巨大水害～どれだけ事前避難できるか～ 中林一樹

- 昨今日本の風水害は激化している。全国で雨量が増加し、20世紀に比較し2.3倍にもなり、巨大水害が予想される。
- 2019年台風19号時の阿武隈川の時系列を見ると、暴風波浪警報が12日8時に発せられ、大雨洪水警報が14時に、土砂災害警報が15時に発せられ、時々刻々と課題が。
- 30年70%と首都直下地震が予測されているが、それと巨大台風の複合災害も考えねばならない時代になっている。
- いよいよ巨大水害からの事前避難が必要で、①事前避難：生活を守る、②緊急避難：命を守る、③避難生活：復旧・復興期の生活；避難所避難、縁故避難、宿泊避難のタイムラインを各自が作るが必要な時代になってきた。

所感：先月、南海トラフ地震臨時情報が発せられ、台風10号は1000mmを超す超巨大台風で、事前避難が不可欠だ。

1755年リスボン地震（[リスボン地震 \(1755年\) - Wikipedia](#)）は首都リスボンを9割崩壊させ、当時の覇権国ポルトガルはその後立ち直っていない。東京もそうならないよう、官民の連携で事前復興を急がねばならない。（文責 中瀬）

(参考) みらくるTV YouTube は、下線部をクリックし観ることができます。

5. 巨大水害からの避難とは

- ①事前避難：生活を守る
 - ・ 気象情報に対応して、日常が確保されている4日前～1日前に発出の「計画運休」に対応する、非浸水地域への避難。
 - 1)縁故避難 2)宿泊避難(ホテル) 3)公的避難？
- ②緊急避難：命を守る
 - ・ 「気象情報(警報)」「河川水位情報」や「避難情報」に対応する緊急避難/逃げ遅れの垂直避難
 - 1)避難場所(公的避難) 2)縁故避難
- ③避難生活：復旧・復興期の生活
 - ・ 被災者の生活を確保する避難
 - 1)避難所避難 2)縁故避難 3)宿泊避難

「緊急避難のためのタイムライン」から「事前避難のためのタイムライン」へ

- ・ 浸水想定市域の居住者は、マイ「事前避難のタイムライン」づくりをしておこう。
- ①数日間の避難が可能な「避難先」を確保しておく
- ②持ち出す物品をリストアップしておこう
- ③移動手段(人と物)の確保
- ④気象情報のどの段階で、家族の誰が、どこに、事前避難を開始するか
- ⑤事前避難をいつまでに完了させるか
- ・ 事前避難は、避難時期を集中させないために！